



人権映画会のご案内

“いじめ”をなくし、相手を思いやる心を育むために



国連NGO横浜国際人権センター山梨プランチでは、甲府市と連携して、子どもたちに豊かな人権感覚を育んでいただくため、「親子映画会」を開催します。

「差別は生命にかかわる」、このことを一体、何人の人が本当に理解しているでしょうか。往々にして、私たちは、知らぬうちに人を傷つけ、その事さえ気づかない事があります。“差別”の中にいても、見ようとしなければ“差別”は見えてこないのです。これらの映画は親と子が共に人権の尊さについて話しあえる教材として制作されました。

日 時	上映場所	内 容
8月17日(日)	甲府市総合市民会館 (甲府市青沼3-5-44)	「放浪芸のうた」(実写・55分) (1回目) 10:30~ (2回目) 13:30~ 「赤まんまの唄」(アニメ・27分) (1回目) 11:30~ (2回目) 14:30~

★映画のあらまし★

「放浪芸のうた」：実写映画

飢餓で両親をはじめ村人のほとんどが死んでしまい、生き残った者も、村をすべて散り散りになった。幼い姉と弟、たみと竹松も、放浪の旅を続けていた。

行き暮れて寺の縁の下で身を寄せ合っている二人は、猿まわしの弥七と猿「ジロ」に出会った。

次の日、弥七とジロの息のあった「芸」に引きこまれてしまった二人は、弥七に自分たちも芸人になりたいと頼んだ。弥七は、本物の芸人になるには生きるか死ぬかの厳しい修行があったことを教え、断ったが、二人の決意の固さと、同じ被差別部落の出ということに共感して、上方の大道芸人の元締である伝兵衛のもとに二人の身をあずけることにした・・・。

弥七(猿まわし) ジョニ一大倉、たみ(姉) 中嶋香葉子、お兼(大道芸人の教え方) 正司歌江



「赤まんまの唄」：アニメ映画

信濃の民話を素材としたアニメーション。過酷な封建社会のしくみのなかで権力者の非道さや冷酷さと農民の悲惨な生活。その中で育ってきた主人公の少女は口を閉ざすことしか抵抗の手段を見出ことしかできませんでした。しかし、その重圧と苦しさの中から立ち上がり、仲間たちと協力して人間らしく生きていく村づくりに取組んでいき、力づよく生き抜いた人々などを主人公の少女を中心に描いている。

(その他、いろいろなDVDがありますので、横浜国際人権センター山梨プランチまで、ご連絡ください。)

国連NGO横浜国際人権センター・山梨プランチ

代表 横山 隆史(全日本同和会山梨県連合会会長)

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階 Tel 055-243-8563